令和７年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

市区町村名	井原市

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
33207井原市	②学校と地域の課題	05 その他	人口減少が加速する中、市の活性化のためには、井原市をフィールドに頑張る若い人が出てくることが大切である。しかし、大学がない本市にとって高校卒業を機に市外に出た若者が戻って来る割合は高くない。少しでも帰ってきてくれる、また井原市で頑張ろうと思ってくれる人が増えることが必要である。 市から出てはいけないということではなく、子どもたちが将来のキャリアを考えるうえで、井原でキャリアを積んでいくことも選択肢の一つということを児童生徒に提示しようと考えた。 そこで、このビジョンと新学習指導要領の目玉の一つである「社会に開かれた教育課程」という理念を複合させて、本市では、令和元年度から「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」(以下、「ひとづくり事業」という。)に取り組んでいる。 本事業（放課後子ども教室）は、地域学校協働活動の一環として実施するとともに、ひとづくり事業の中では「地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業」に整理・統合している。	「ひとづくり事業」では、目的の一つに ・子ども大人も、これからの時代を自分らしく、幸せに生き抜くために必要な資質・能力「井原“志”民力≒非認知能力」を醸成し、自分やふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」を愛し、ふるさと井原を自らの活動の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い想いをもった(井原“志”民)の育成と(志縁コミュニティ)の形成を図る を掲げている。 具体的には、自分とふるさと井原を愛（Ｉ）し、よりよい未来のために実行（Do）する 自分と井原への確かな『Ｉｄｅｎｔｉｔｙ』(＝井原“志”民力)に集約・整理する「身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）」のうち、本事業では、いばら愛（郷土愛と当事者性）の醸成を目標値として設定し、各教室において取組を進める。 令和7年度については、井原市ひとづくり推進本部を始め、同実行委員会、同ネットワーク運営協議会等での評価・分析を踏まえつつ、本事業において右記アウトカムを意識した事業の企画・運営に努めていただくよう、各教室の運営委員会に周知を図る。	「ひとづくり事業」では、子どもたちが、ふるさと井原の魅力拡大や課題解決に参画する学習活動や地域活動を積極的に導入しており、事業開始当初から小学生（4～6年生）を対象に実施している井原“志”民力実態調査の結果からは、身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）や幸福度、地域への想いが年々高まる傾向が見られている。 しかし、令和6年度の当該調査では、右記に掲げる指標（いばら愛①～③）が全てにおいて0．3ポイント程度現状値を下回った。さらに、全てR4実績値を下回る結果となった。 (R6実績値) ① 3.57 ② 3.43 ③ 3.44 (R5実績値＝現状値) ① 3.86 ② 3.76 ③ 3.79 (参考：R4実績値) ① 3.78 ② 3.71 ③ 3.69 (参考：R3実績値) ① 3.42 ② 3.25 ③ 3.35 なお、令和6年度における本事業の取組の評価・分析については、各教室の実績報告取りまとめ時に行い、後日担当者会を開催して情報共有・意見交換等を行う予定である。	「ふるさと井原」への愛情を持ち、自分自身が井原市民の一員であるということを自覚できている小学生の割合を増やす	いばら愛① 住んでいる地域にいる大人から子どもまでいろんな年代の人たちと交流することができる	3.57 （5段階評価）		4.00	3.40	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	（成果） 平均値は3.40で、5段階評価の中間値(3.00)を上回っていることから、児童は地域における多世代との交流について概ね肯定的にとらえていると考えられる。また、各地区ひとづくりネットワーク運営協議会の活動等や放課後子ども教室により、児童が地域の大人と接する機会は一定程度確保されている。地域のボランティアと児童・保護者との距離が縮まり、日常的に声をかけ合えている地域もあり、交流の深まりにつながる取り組みが進められている。さらにこうしたかかわりの中で、中高生になってからもボランティアとして参加し継続的に地域と関わろうとする意識が一部で見られるなど、次世代の担い手育成にもつながっている。 加えて、各地区放課後子ども教室担当者へのアンケートにおける本項目の平均値は3.63となっており、現場においても多世代交流の機会は一定程度確保されている状況がうかがえる。 （課題） ボランティアの高齢化や、新規人材の確保が難しい状況があり、活動の担い手が固定化している。 （改善点） 引き続き、児童が地域との交流を実感できるような取り組みを継続していくともに、より多くの児童が地域の人と関わる機会を持てるよう、より一層活動の充実を図る。 また、各地区の放課後子ども教室の取組を担当者同士が共有する機会を設け、交流の実感につながった好事例を各教室に活かすことで活動の充実を図る。	井原市HP
33207井原市	②学校と地域の課題	05 その他	人口減少が加速する中、市の活性化のためには、井原市をフィールドに頑張る若い人が出てくることが大切である。しかし、大学がない本市にとって高校卒業を機に市外に出た若者が戻って来る割合は高くない。少しでも帰ってきてくれる、また井原市で頑張ろうと思ってくれる人が増えることが必要である。 市から出てはいけないということではなく、子どもたちが将来のキャリアを考えるうえで、井原でキャリアを積んでいくことも選択肢の一つということを児童生徒に提示しようと考えた。 そこで、このビジョンと新学習指導要領の目玉の一つである「社会に開かれた教育課程」という理念を複合させて、本市では、令和元年度から「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」(以下、「ひとづくり事業」という。)に取り組んでいる。 本事業（放課後子ども教室）は、地域学校協働活動の一環として実施するとともに、ひとづくり事業の中では「地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業」に整理・統合している。	「ひとづくり事業」では、目的の一つに ・子ども大人も、これからの時代を自分らしく、幸せに生き抜くために必要な資質・能力「井原“志”民力≒非認知能力」を醸成し、自分やふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」を愛し、ふるさと井原を自らの活動の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い想いをもった(井原“志”民)の育成と(志縁コミュニティ)の形成を図る を掲げている。 具体的には、自分とふるさと井原を愛（Ｉ）し、よりよい未来のために実行（Do）する 自分と井原への確かな『Ｉｄｅｎｔｉｔｙ』(＝井原“志”民力)に集約・整理する「身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）」のうち、本事業では、いばら愛（郷土愛と当事者性）の醸成を目標値として設定し、各教室において取組を進める。 令和7年度については、井原市ひとづくり推進本部を始め、同実行委員会、同ネットワーク運営協議会等での評価・分析を踏まえつつ、本事業において右記アウトカムを意識した事業の企画・運営に努めていただくよう、各教室の運営委員会に周知を図る。	「ひとづくり事業」では、子どもたちが、ふるさと井原の魅力拡大や課題解決に参画する学習活動や地域活動を積極的に導入しており、事業開始当初から小学生（4～6年生）を対象に実施している井原“志”民力実態調査の結果からは、身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）や幸福度、地域への想いが年々高まる傾向が見られている。 しかし、令和6年度の当該調査では、右記に掲げる指標（いばら愛①～③）が全てにおいて0．3ポイント程度現状値を下回った。さらに、全てR4実績値を下回る結果となった。 (R6実績値) ① 3.57 ② 3.43 ③ 3.44 (R5実績値＝現状値) ① 3.86 ② 3.76 ③ 3.79 (参考：R4実績値) ① 3.78 ② 3.71 ③ 3.69 (参考：R3実績値) ① 3.42 ② 3.25 ③ 3.35 なお、令和6年度における本事業の取組の評価・分析については、各教室の実績報告取りまとめ時に行い、後日担当者会を開催して情報共有・意見交換等を行う予定である。	「ふるさと井原」への愛情を持ち、自分自身が井原市民の一員であるということを自覚できている小学生の割合を増やす	いばら愛② 住んでいる地域のいろんな（知らない）知識や情報を自分から収集して、より多くのことを知ることができる	3.43 （5段階評価）		4.00	3.38	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	（成果） 平均値は3.38で、5段階評価の中間値(3.00)を上回っていることから、児童は地域について知ろうとする意識は一定程度見られる。また、地域に関する学習や活動を通して、地域の歴史や人物等への関心の高まりが一部で見られ、学習の中で地域を題材として扱う様子もうかがえるなど、地域理解の深化につながる取組が進められている。体験的な学びの機会の充実にもつながっている。 加えて、各地区放課後子ども教室担当者へのアンケートにおける本項目の平均値は4.00となっており、運営側は高い意識をもって地域の特色を生かした活動を実施している。 （課題） ボランティアの高齢化や、新規人材の確保が難しい状況があり、活動の担い手が固定化している。 （改善点） アンケート等により児童の興味関心を把握し、それに応じてテーマや活動内容を設定することで、児童が主体的に参加できる取組の充実を図る。 また、各地区の放課後子ども教室の取組を担当者同士が共有する機会を設け、他地区の好事例を各教室に活かすことで活動の充実を図る。	井原市HP
33207井原市	②学校と地域の課題	05 その他	人口減少が加速する中、市の活性化のためには、井原市をフィールドに頑張る若い人が出てくることが大切である。しかし、大学がない本市にとって高校卒業を機に市外に出た若者が戻って来る割合は高くない。少しでも帰ってきてくれる、また井原市で頑張ろうと思ってくれる人が増えることが必要である。 市から出てはいけないということではなく、子どもたちが将来のキャリアを考えるうえで、井原でキャリアを積んでいくことも選択肢の一つということを児童生徒に提示しようと考えた。 そこで、このビジョンと新学習指導要領の目玉の一つである「社会に開かれた教育課程」という理念を複合させて、本市では、令和元年度から「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」(以下、「ひとづくり事業」という。)に取り組んでいる。 本事業（放課後子ども教室）は、地域学校協働活動の一環として実施するとともに、ひとづくり事業の中では「地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業」に整理・統合している。	「ひとづくり事業」では、目的の一つに ・子ども大人も、これからの時代を自分らしく、幸せに生き抜くために必要な資質・能力「井原“志”民力≒非認知能力」を醸成し、自分やふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」を愛し、ふるさと井原を自らの活動の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い想いをもった(井原“志”民)の育成と(志縁コミュニティ)の形成を図る を掲げている。 具体的には、自分とふるさと井原を愛（Ｉ）し、よりよい未来のために実行（Do）する 自分と井原への確かな『Ｉｄｅｎｔｉｔｙ』(＝井原“志”民力)に集約・整理する「身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）」のうち、本事業では、いばら愛（郷土愛と当事者性）の醸成を目標値として設定し、各教室において取組を進める。 令和7年度については、井原市ひとづくり推進本部を始め、同実行委員会、同ネットワーク運営協議会等での評価・分析を踏まえつつ、本事業において右記アウトカムを意識した事業の企画・運営に努めていただくよう、各教室の運営委員会に周知を図る。	「ひとづくり事業」では、子どもたちが、ふるさと井原の魅力拡大や課題解決に参画する学習活動や地域活動を積極的に導入しており、事業開始当初から小学生（4～6年生）を対象に実施している井原“志”民力実態調査の結果からは、身に付けたい3つの力（いばら愛・やりぬく力・まきこむ力）や幸福度、地域への想いが年々高まる傾向が見られている。 しかし、令和6年度の当該調査では、右記に掲げる指標（いばら愛①～③）が全てにおいて0．3ポイント程度現状値を下回った。さらに、全てR4実績値を下回る結果となった。 (R6実績値) ① 3.57 ② 3.43 ③ 3.44 (R5実績値＝現状値) ① 3.86 ② 3.76 ③ 3.79 (参考：R4実績値) ① 3.78 ② 3.71 ③ 3.69 (参考：R3実績値) ① 3.42 ② 3.25 ③ 3.35 なお、令和6年度における本事業の取組の評価・分析については、各教室の実績報告取りまとめ時に行い、後日担当者会を開催して情報共有・意見交換等を行う予定である。	「ふるさと井原」への愛情を持ち、自分自身が井原市民の一員であるということを自覚できている小学生の割合を増やす	いばら愛③ 住んでいる地域で開かれる行事やボランティア活動に、積極的に参加することができる	3.44 （5段階評価）		4.00	3.38	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	（成果） 平均値は3.38で、5段階評価の中間値(3.00)を上回っていることから、児童は地域の活動への参加について一定の肯定的な意識が見られる。また、地域のために役に立ちたいと考え、中高生になってからもボランティアとして参加する事例も見られるなど、地域活動への関わりが継続していく様子もうかがえる。 加えて、各地区放課後子ども教室担当者へのアンケートにおける本項目の平均値は3.38となっており、一定程度の活動機会が提供されている状況がうかがえる。、 （課題） 地域行事や放課後子ども教室など、機会はあるものの参加する児童が減ってきている状況がある。 （改善点） 魅力ある活動内容の設定や、参加しやすい仕組みづくりなどにより、児童および保護者の参加意欲を高め、活動の充実を図る必要がある。 また、各地区の放課後子ども教室の取組を担当者同士が共有する機会を設け、主体的参加につながった好事例を各教室に活かすことで活動の充実を図る。	井原市HP